

宮崎市歴史資料館におけるレファレンスと資料活用について

宮崎市生目の杜遊古館
主任学芸員 花田 想乃香

【要 約】

宮崎文化振興協会の宮崎市歴史資料館で行われているレファレンスへの対応は学芸員にとってやりがいもある一方で負担も大きい。しかし、その業務内容や苦労は学芸員以外には見えづらく理解しがたいものであった。本研究ではこれまでに受けた質問や回答プロセスについて分析し、業務内容を可視化するとともに現状の課題を挙げ、今後の対策を考案したものである。

はじめに

宮崎市歴史資料館（生目の杜遊古館・佐土原歴史資料館・天ヶ城歴史民俗資料館、3館の総称。以下、当館とする）では、学芸員の業務の一つとしてレファレンスがある。レファレンス（またはレファレンスサービス）とは主に図書館で使われる言葉で、利用者の問い合わせに応じ、利用者が必要とする文献や参考図書を照会、検索をする業務のことを指す。

当館では歴史的な質問、所蔵資料の問い合わせなどをレファレンスと呼称し対応しているが、内容は実に様々であり、回答の作成に長い時間を要し、他の業務を圧迫することもある。しかし、このレファレンスや対応時間については認知されていない現状がある。

また、レファレンスに回答する手段として収蔵資料の閲覧、資料写真の提供に至ることもあるが、今年度より資料の燻蒸剤が生産中止となったため、できるだけ資料を収蔵庫から出す頻度を減らし、資料がカビや虫害にさらされる機会を減らさなくてはならない。また、資料利用があった場合には新たな方法で防カビ・防虫処理をしていかななくてはならないという課題もある。

本研究では、当館におけるレファレンス対応について実績をまとめるとともに、質問内容の分析と回答までのプロセスの整理を行う。また、レファレンスにおける資料利用への対応策を考案したい。

第一章 レファレンス内容と具体的対応について

レファレンス受付の仕組みとしては、来館者から直接受けるほか、電話やお申し込みフォームからの問い合わせというものがある。問い合わせは学芸員に繋がれ、担当が回答に向けて動くことになる。当館は平成26年からレファレンスの記録をとっており、令和7年度からはレファレンス報告書を作成し、学芸員で共有することにした。

今年度4月～11月末までに記録されているレファレンス対応は全部で30件あり、3館に各10件程度の問い合わせがあり、そのうち収蔵資料を利用する特別利用に至ったものは10件であった。この

30 件について簡単にまとめたものが表 1 である。

表 1 令和 7 年度レファレンス記録（11 月末現在）

NO.		質問内容	該当地域	調査分類	参考資料
1	4月	佐土原藩主の葬儀・埋葬場所について知りたい	佐土原	事実調査	佐土原藩史、宮崎県史、佐土原町史
2	4月	家老職「児玉氏」について知りたい	佐土原	事実調査	佐土原藩分限帳
3	5月	佐土原藩主「春成氏」について知りたい 佐土原にあった青年学校について知りたい	佐土原	事実調査	佐土原藩分限帳、佐土原町史、ガイドさん対応
4	5月	生目の由来について、景清の由来に疑義がある	生目	文献紹介	宮崎平野の歴史 下巻
5	5月	佐土原藩分家「島之内島津氏」について知りたい	島之内	事実調査	寛政重修家譜、住吉郷土史、島之内島津家系図
6	5月	土器のレプリカを借用したい	生目	資料利用	
7	6月	佐土原藩にあった「諏訪神社」の場所を知りたい	佐土原	事実調査	佐土原藩史、宮崎県史、佐土原町史
8	6月	10年前に生目古墳群で見た墓について知りたい	生目	文献紹介	文化財課HP生目古墳群
9	7月	天ヶ城に野口英世関係の資料があるか知りたい	高岡	事実調査	
10	7月	高木兼弘の家系図はないか、自分の先祖に関係する資料はないか	高岡	事実調査	高岡町史、高木兼弘顕彰会リーフレット、県の先覚者HP、高木兼寛伝
11	7月	天ヶ城にある「インディアン」の絵について	高岡	所蔵調査	
12	7月	H23研究紀要に掲載した田の神像の所在地をまとめて教えてほしい	高岡	事実調査	
13	8月	家の掃除で出てきた古文書を見つけたので読んでほしい	佐土原	私物調査	佐土原藩分限帳
14	8月	生目古墳群の写真を使用したいので提供してほしい	生目	資料利用	
15	8月	持っている掛軸等資料の鑑定をしてほしい	宮崎市	私物調査	
16	8月	弥生時代の宮崎と北部九州の交易路について知りたい		事実調査	
17	8月	親族宅に佐土原由来と伝わる金屏風があるが、藩として所持した記録があるか	佐土原	事実調査	佐土原藩史、宮崎県史、佐土原町史、佐土原藩島津家日記
18	9月	寄託資料について閉館後はどうなるのか	高岡	その他	
19	9月	天ヶ城の「インディアン」の絵を閲覧したい（7/12と同一人物）	高岡	資料利用	
20	9月	寄託資料の名義を変更したい	高岡	その他	
21	11月	石ノ迫第 2 遺跡について知りたい	生目	事実調査	
22	4月	穆佐城の紹介のため穆佐城模型の写真を使いたい	高岡	資料利用	
23	5月	研究のため高岡名勝志を利用したい	高岡	資料利用	
24	6月	新聞掲載のため田の神像の写真利用及び採寸をしたい	高岡	資料利用	
25	8月	新聞掲載のため島津啓次郎写真（日高次古文書）を利用したい	佐土原	資料利用	
26	9月	寄贈資料、伊達孝太郎「インディアン」の絵画を閲覧したい（7/12と同一人物）	高岡	資料利用	
27	9月	テレビ番組の制作で広瀬小学校に関する写真資料を利用したい	佐土原	資料利用	
28	10月	部活動の一環で、下北方5号地下式横穴墓展示資料を利用し動画を作成したい	生目	資料利用	
29	10月	資料調査のため日高次古文書を撮影したい	佐土原	資料利用	
30	11月	研究のため企画展展示中のマッチ箱を撮影したい	生目	資料利用	

今回、分析のために該当地域、調査分類、回答するために利用した参考文献を記載した。このうち調査分類については、事実調査・文献紹介・資料利用・所蔵調査・私物調査・その他の 6 種類に分けて整理した。分類の詳細は以下の通りである。

- ①事実調査＝歴史的事象や人物についての問い合わせ。
- ②文献紹介＝事実調査だけでなく、参考になる文献を探しているという問い合わせ。
- ③資料利用＝資料を利用したいという問い合わせ。資料の利用に至った場合は特別利用となるが、資料によっては利用できない場合もある。
- ④所蔵調査＝質問者が探している資料が館にあるかどうかという問い合わせ。
- ⑤私物調査＝個人所有物を調査してほしいという依頼。
- ⑥その他＝所管課である宮崎市文化財課が対応すべき問い合わせ。回答もそちらに仰いだもの。

今回、簡易的に 6 種類に分けたが、①事実調査や②文献紹介は問い合わせ内容も様々であり、回答までに非常に時間がかかることもある。例えば、事実調査に分類した No. 1・5・7 のレファレンスについては藩の記録についての質問であり、ある程度宮崎県史等の刊本にまとめられている。しかし、

No. 2・3・10 のレファレンスについては特定の人物の調査であり、よほど大きな事件にかかわっていない限り文献上にでてくることはない。このように特定の人物を探してほしいという問い合わせは毎年寄せられる。質問者のご先祖にあたる方の調査が多いが、文献の中から名前を拾う作業は非常に時間がかかる上、発見に至らない場合も多い。No. 17 は藩の記録についての質問だが、特定の屏風を探すというもので、藩の日記等の中から記述を探す作業となり時間を要した。しかし、この件も発見には至らなかった。

文献の調査ではないが、No. 12 は地域に存在した田の神像の場所について尋ねるものであり、約 30 体の田の神について特徴・所在をまとめ、報告している。まとめにはかなりの時間を要しただけでなく、以前調査したことのある学芸員が対応しており、それ以外の職員では対応は不可能であった。

③資料利用のうち No. 22～30 については、特別利用に至ったものである。資料利用者には「宮崎市歴史資料館資料特別利用許可申請書」を提出してもらい、館から許可書を発行している。利用内容として 1 熟覧 2 筆写 3 模写 4 拓本（乾・湿） 5 撮影（写真・ビデオ） 6 コピー 7 法量測定 8 その他 の 8 項目がある。熟覧・撮影され、個人研究に利用される方も多いが、メディア・広報・展示等に資料写真を利用する際にも必要となる。No. 11・19・26 は同じ方からのレファレンスであるが、このように資料の所蔵についての問い合わせから特別利用に発展するものも少なくない。

⑤私物調査は少ないが、ほぼ毎年ある依頼である。古文書の解読は職員の知識や技能によって回答までにかかる時間が違ってくる。今年あった依頼は比較的読みやすい内容の家系図であったため、写真を撮影し、ある程度の解読を行い、翌日電話にて回答を行った。また、No. 15 の個人所有物の鑑定を行ってほしいという依頼についてだが、学芸員は鑑定士ではないため、物の価値や絵・書の真贋を見極めることができない。よって鑑定は行えないと回答している。相談内容によっては宮崎市への寄贈・寄託へ移ることもある。その場合は郷土の歴史や民俗に関係する資料かどうか問われるため、助言をすることはあるが、現在、寄贈寄託の受け入れは宮崎市文化財課の担当となっており、そちらへ連絡するように伝えている。

第二章 レファレンス対応の課題

第一章で示したように、レファレンスの対応としては様々な方法をとっているが、対応する学芸員が苦勞している点はどうなのかな館内でアンケートを実施したところ、主に以下のようなことがあげられた。

①仕事の優先順位と時間配分

問い合わせを受けた時点でレファレンスの対応が始まる。問い合わせの内容によっては相手の都合で回答を急かされることがあり、レファレンス対応が最優先業務となり他の業務が滞ることになる。また質問者が回答を急がない場合でも返事を待っていることを考えるとあまり時間はない。企画展、学芸員講座の直前は学芸員にとって非常に忙しい時期であるが、レファレンスの対応が入ると業務がひっ迫するという状況がある。概ね 1 日から数日で回答することが多いが、質問内容によっては半月～ひと月ほど時間をかけることもある。回答の根拠となりそうな文献、資料にあたりを付け、そこから探し出し、まとめるという作業は非常に時間がかかる。過去には写真に写っている人物は誰か特定してほしいといった難解なレファレンスもあった。

②質問内容の把握と知識不足

質問内容が明確でないことも多い。何時代のどのあたりの地域の誰・何を知りたいのかが明確でない、また学芸員の知見にまだないことに対する質問等も把握に時間がかかる。そもそも歴史的事実と質問内容があわない場合もあり、まず聞き取りに時間を要することも少なくない。

また質問・問い合わせについて学芸員は、研究や企画展、以前のレファレンス等で得た知識を以って回答を行っている。すぐに答えられるものであれば学芸員がその場で回答するが、たいていの場合は一度文献等で確認している。しかし、どの文献を参考にすればよいかなどは、個々の知識、レファレンスに対応してきた年数等で変わってくるため、レファレンスの記録がもっとうまく活用できるようになればよいと考える。

③個人情報の取扱い

前述の先祖探しや私物調査のレファレンスに多いが、現在にまでつながっている家系図や戸籍謄本を持ち込まれることがある。個人情報保護の観点から目を通して良いものか分かりかねるが、持ち込んだ方にその旨お伝えし、了解を得てから読むようにしている。

④特別利用と資料保存

新たな課題として、資料の特別利用があった際、その後の資料の保存・管理についても考えなくてはならなくなった。所蔵資料は、収蔵庫で温湿度管理されているが、そもそも資料を収蔵庫に入れる前には燻蒸という作業で資料についた菌や虫、虫の卵等を薬剤で殺菌・殺虫していた。特別利用があった際も同様に資料は燻蒸してから収蔵庫内に戻していた。しかし、この燻蒸に使用していた殺菌をするための薬剤が令和7年より製造中止となったため、今後この燻蒸作業ができず、特別利用後の資料をどうやって収蔵庫に戻すべきかが悩みの種となっている。

第三章 課題への対策

上記のようなレファレンスへの課題に対し、当館としてはどのような対策がとれるだろうか。以下の対策を考案した。

対策① レファレンスの制限

他館ではホームページで、対応ができないレファレンスについての記載をしている館もある。例えば、東京国立博物館では「ご自身の作品または所蔵品の展示依頼、購入依頼・古書、古文書、美術品などの鑑定および市場価格の調査・学習課題、卒業論文、懸賞問題に関する調査・文献の解説、翻訳、注釈、抜粋の作成・調査の代行および研究の代行と認められる調査・その他、他のレファレンス業務に支障を及ぼす恐れがあると認められる調査」については対応できない旨が記載されている。

このほかの施設でも鑑定や市場価格の調査、文献の解説、個人のプライバシーに係る調査等是不可能的旨を明記しているところがあるので、当館でも同じように受けるレファレンスを絞っていくことも可能であろう。しかし、市民サービスの向上やレファレンスを受けることによる知識の向上につながらないこともあり、現状ではなかなか踏み込めないでいる。

対策② 対応プロセスの整理

先述した通り、当館ではレファレンス記録簿と報告書の作成を行い、対応したものを共有して閲覧できるようにしている。以前の記録に目を通すことができるのは非常に便利であるが、報告書の記載内容を見直すことで今後もっと活用しやすくなるのではないかと考える。現在、レファレンス報告書の記述事項は「依頼者・連絡先・対応者・受付日・終了日・レファレンス内容（聞き取り・回答の

内容などを詳細に記録してください)」となっている。この内容の書き方が人によって、また日によって書き方が違っているのが現状のようである。そのため、レファレンス内容をより詳細に項目分けすることで書き手も読み手もわかりやすくできるのではないかと考える。今回、第二章で分析をするために「該当地域・調査分類・参考資料」という三つの項目を利用したが、このほか「時代・キーワード・類似調査」等を付け加えることでより詳細に分かりやすく対応プロセスを伝えていくことができると考える。報告書の運用は今年度より開始しているため、今一度内容を学芸員で吟味し、新たにわかりやすく煩雑化しない様式を作って来年度より改訂していきたい。

対策③ 収蔵資料のデジタルアーカイブ化

レファレンスの回答にかける時間を短縮する手段として、収蔵資料のデジタル化も有効な手立てである。展示している資料以外は、基本的に収蔵庫に保管されているためレファレンスを受けた時点ですぐに確認できないことが多い。そのため、収蔵庫へ行くという時間が必要となる。資料をデジタル化し、学芸員内で共有することで手元のパソコンで資料を見ることができればレファレンスにスムーズに対応することが可能となるほか、資料にかける負担も少なくすることができる。現在、一部特別利用では、あらかじめ撮った資料の写真を利用することで対応を行っているものもある。使用する申請者も写真を撮りに来る必要がないため負担が少なくて済むようである。今回の研究に伴い、資料のデジタル化のため写真撮影も行った。現在管理下にある資料は佐土原歴史資料館と天ヶ城歴史民俗資料館で約7,000点程あるため、全てをすぐに撮影することは難しいが、取り急ぎ、よく特別利用申請のある佐土原歴史資料館蔵、日高次吉文書（全861点）の撮影に取り掛かり、現在も進行中である。

対策④ 新たな資料保存方法の開拓

全てのレファレンスや特別利用がデジタル資料で済めばよいが、全てのデータ化には時間がかかる上、やはり現物史料を閲覧、撮影したいという問い合わせもある。そのため、燻蒸以外での資料の浄化作業についても考えていく必要がある。今回の研究では、スライド・チャック式バリア袋により、無酸素の密閉空間を作ることができるキットを使用することにした。この袋はカビの発生が心配な資料の防カビそして殺虫を行うためのもので、使用后、他の資料へのカビや虫の被害を防ぐことができる。今回の研究対象ではないが、今後、外部から受け入れる資料にも活用できると考える。

おわりに

レファレンス業務や資料の管理については携わる学芸員以外からは見えづらいため、今回の研究では見える化することが一つの目的であった。対応や回答プロセスは煩雑であり、すべてを記すことはできなかったが、過去に勤めていた学芸員を含め、現在勤める者もレファレンスに対して真摯に向き合い、対応していたことが一部可視化できるようになったと考える。今後も同じように学芸員たちはレファレンスに対応していくことになるが、自分たちの知識を深める一方で、過去の回答をうまく利用し、業務をスムーズに行う事ができるような仕組みを検討し続けることも必要な作業である。まずは、本研究で述べた対策について館内で共有・協議し、適切な資料の保存管理を行いつつ、レファレンスに対応・活用していきたい。

引用文献・参考文献・参考資料リスト

- 1) 大堀哲,『博物館学教程』,東京堂出版,1997
- 2) 福井県立図書館,『100 万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』,講談社,2021
- 3) 柴正博,『博物館と学芸員のおしごと-博物館概論-』,東海教育研究所,2023
- 4) 根本彰・齋藤泰則,『レファレンスサービスの射程と展開』,日本図書館協会,2020
- 5) 井上美奈子,「博物館図書室の「レファレンスサービス」とレファレンス協同データベースの活用」,『東京都江戸東京博物館紀要 第3号』,2013, p.185-195, https://edo-tokyo-museum.repo.nii.ac.jp/record/193/files/kiyo3_185-195.pdf
- 6) 須藤格,「茅ヶ崎市文化資料館のレファレンスについて」,『文化資料館調査研究報告 20』,2011, p.109-114,
https://www.chigamu.jp/data/download/100/25/07_%E8%8C%85%E3%83%B6%E5%B4%8E%E5%B8%82%E6%96%87%E5%8C%96%E8%B3%87%E6%96%99%E9%A4%A8%E3%81%AE%E3%83%AC%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6%20.pdf